

経営方針と対処すべき課題（有価証券報告書より）

① 目指す姿と数値目標

Vision

どこまでも、インフラサービスの自由が広がる世界。

事業利益
700億円当期利益
430億円EBITDA
1100億円付加価値額
2250億円

② 中長期の経営戦略

1. 総合インフラサービス企業へ転換

インフラのライフサイクル全体（企画提案・施工・運営維持管理・再投資）をマネジメントするビジネスモデル確立

3. 積極的なM&A推進

グループエンジニアリング力の集結と事業領域の拡大により競争力を最大化し高収益基盤を確立

2. 請負事業強化と脱請負事業拡大

請負事業の強化と官民連携・再生可能エネルギー事業の拡大により成長サイクルの好循環を構築

4. デジタル化と生産性改革

DX推進と生産設備投資の最適化により迅速かつ機動的な経営体制を確立

③ 対処すべき課題

① 社会インフラの老朽化と維持管理投資の課題

- ・ 高度経済成長期に整備されたインフラの一斉老朽化に対応
- ・ 財政制約により既存インフラの維持管理・更新投資が不足
- ・ 新規建設市場の縮小に対し官民連携による新市場開拓が必須

② 人口減少と担い手不足への対応

- ・ 少子高齢化に伴う生産年齢人口減少による担い手不足の深刻化
- ・ 働き方改革と抜本的な生産性改革の推進が必須

③ カーボンニュートル対応と経営基盤強化

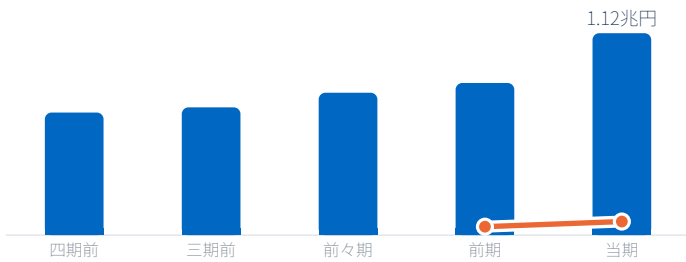
- ・ カーボンニュートル政策推進による再生可能エネルギー市場の急速拡大に対応
- ・ ESG経営推進と更なる高度なガバナンス体制構築が必須
- ・ デジタル技術の急激な進展への迅速かつ機動的対応が急務

面接で使えるポイント

- ・ グループ各社の強みを活かしインフラライフサイクル全体をマネジメントする『総合インフラサービス企業』を目指す
- ・ 2027年度に事業利益700億円・EBITDA1100億円を目標とする『投資事業拡大フェーズ』に挑戦
- ・ 官民連携・再生可能エネルギー事業への成長投資と政策保有株式2027年度ゼロ目標で経営資源を最適化

証券コード 5076

業績の推移（売上＝棒 / 営業利益＝線）



※営業利益は直近2期のみ開示（有報の様式変更による）

暗記する数字3つ

連結売上高
1.12兆円

営業利益率
6.7%

財務健康度
35点 / 100点

要するに

2021年10月に設立された建設業大手で、連結売上7,865億円

主力事業・セグメント

- ・ Building 44.4%
- ・ RoadPaving 25.2%
- ・ Civilエンジニアリング 23.6%

強み・特徴（公開データから）

- ・ 連結売上高1.12兆円の大企業
- ・ 東証プライム市場上場

※要約はAI生成のため誤りを含む可能性があります

将来性 曇り / 就活偏差値 64.8（当サイト算出の参考指標）

平均年収
1,189万円

建設業内 8位/140社

平均年齢
43.2歳

建設業内 74位/140社

平均勤続
13.4年

建設業内 104位/140社

女性管理職
13.3%

建設業内 6位/112社

男性育休
0.0%

建設業内 104位/104社

※平均年収は提出会社単体・有価証券報告書ベース。順位は同33業種内の掲載企業での比較。

ここから下は自分で書く（面接で話すこと）

志望動機の核

上の数字・事業と接続して書く

自分の経験との接点

逆質問メモ

※1つはデータ起点で（例：勤続年数が長い要因は…）

直近ニュース十一言

参考: バスケットボール寄贈のご報告 Supported by イン

